

7月17日 リモートセンシングを用いた流域圏ハビタットマップ作成の展望と課題

話題提供者 高橋 俊守（宇都宮大学農学部助教授）

場所 東京体育館 第三会議室 18:00～20:00

【講演要旨】

生物多様性の保全計画を立案するためには、対象とする生物種の分布やその変化をモニタリングした情報が求められる。しかし、多様な生物種を網羅的に扱うことはほとんど不可能であるため、ハビタット及び分類群を指標する生物種を用いることが、保全計画の立案を容易にする場合が多い。今日では、リモートセンシング技術の進展によって、より高い空間分解能で、効率的にハビタットの空間分布を把握することが可能になっている。すでに欧米では、ハビタットマップをはじめ、多目的に用いることができるランドカバーマップの作成におけるリモートセンシングの利活用が定着している。わが国では、これに代わる空間情報として、現存植生図が全国レベルで整備されていることが特筆されるが、リモートセンシングを基にしたハビタットマップとしても利用可能なランドカバーマップの作成は定着していない。講演では、流域圏のスケールに着目し、リモートセンシングを用いてハビタットマップを作成するための課題と展望について述べる。